

## 2020 年度実施概要

学校名

三重県鳥羽市立鳥羽東中学校

採択活動名

鳥羽市における持続可能な海洋教育の実践

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 動物の生活と生物に進化	2	理科
2. 海洋学習	2	総合
3.		

取り組みの概要

2020年9月2日(水)鳥羽市立海の博物館での海洋学習を軸に、海の生き物の分類や、海洋動物を捕獲するための注意点などを事前に学習した。

研修会では、アマモの歴史と、その役割について、同博物館の館長である平賀氏の講演に2学年全生徒に参加した。アマモ場が、人間の世界でいうと産婦人科、保育園、幼稚園、小学校の役割を果たし、多くの生命がこの場所で誕生し、ひとり立ちするまで過ごす場所であり、そのアマモ場が、伊勢湾では50年前と比べると100分の1まで減ってしまっていることを学んだ。その後の質疑応答では、「アマモ場が減ってしまった要因は?」「私たちにできることは?」など活発な議論となった。アマモ場の減少には様々な要因はあるが、近年の海水温の上昇もその一つであるということを知った。

9月3日(木)校外学習の翌日、捕獲した海洋動物の分類や、種の特定をする同定作業を行った。海の博物館の平賀館長をはじめ、三重県水産研究所の職員、鳥羽市役所からも講師を招き、活動を行った。2020年9月2日に小白浜海岸にはどのような生き物がいたのかを正確にデータとして残し、今後の生態系の変化の研究に役立てたい。

海に囲まれて暮らす私たちにとって、海洋学習を通じて、「鳥羽市」をより考えるきっかけとなった。今回の取り組みには、中学校が挑戦するのなら、と地元漁協をはじめ「海のことを真剣に考える」大人の方々が、快く協力してくれた。

今回の活動は、愛知県刈谷市のケーブルテレビでも取材を受けており、「漁民とともに～鳥羽市海の博物館～」で放映された。また、取り組みの成果を全国海洋教育サミットでも発表する機会をいただき、2022年統合予定の鳥羽市立長岡中学校と一つのチームとして発表を行った。

